

創立43周年記念事業



有朋会・理念

- 1 私達は、明るく開放的な雰囲気をつくり、様々なこころの悩みに応えることができる法人を目指します。
- 2 私達は、患者様、利用者様一人一人を尊重した支援を行い、共に歩んでいきます。
- 3 私達は、情熱と誇りを持って質の高い医療・介護を提供します。

創立43周年記念式典

平成22年10月、医療法人社団有朋会は創立43周年を迎えることができました。それを記念し、去る10月30日に記念式典、記念講演、症例発表を行いました。



今年は筑波大学臨床医学系精神医学教授 朝田 隆先生にお越しいただき、「未来社会における地域精神病院の役割」という演題でのご講演をいただきました。今後の地域精神医療が検討すべき重要課題などについて当法人の理念や活動に沿った視点からご教授いただき、当法人にとって今後の地域精神病院としての役割を再度認識する上で貴重なお時間をいただきました。



症例発表では、茨城県立医療大学保健医療学部看護学科 糸嶺 一郎先生にお越しいただき、ご講評・ご指導をいただきました。

今年は、未収金に関する症例や全面禁煙に伴う患者の経過、認知症患者への個別的な関わりなど、12題の様々な発表が行われ、各症例発表に対し糸嶺先生による丁寧なご講評・ご指導をいただきました。

糸嶺先生によるご講評・ご指導を元に、現状に甘んずることなく、より質の高い医療を志しております。

創立記念式典2 ～創立記念事業の症例発表に参加して～



症例発表：ふまねっと運動について

～ヒマワリ病棟の実施にて見えてきたこと～

作業療法士 小林 紘子

この度は、症例発表において優良賞をいただき、とても光栄に思います。同時に、身の引き締まる思いです。プログラムに取り組むきっかけを与え、発表に向けて様々な場面で支えて下さった作業療法部の先輩方はじめ、ご協力くださいました皆様に、心より御礼申し上げます。

今回は、事例の読みやすさを評価していただいたの受賞でした。私自身が難しい文章が苦手なこともあり、初めて読む人にも分かりやすく書きたいと、意識して取り組んでいました。しかしながら、何度も先輩方にアドバイスをいただく中で、“何を一番に伝えたいのか”が見えないとのご指摘をいただき、“自分が最も伝えたいこと”が埋もれてしまっていることに気が付きました。相手に伝えるということの難しさを感じると共に、今回なんとか納得のゆく形として発表できたことで、自信にも繋がったと感じています。

題材となったプログラムを通して、私自身の至らない点も沢山見つけることができました。今回の受賞を励みとして、より一層の努力をしてゆきたいと思います。本当にありがとうございました。



症例発表：地域での暮らしを支える

～施設から在宅への退所支援過程を通して～

精神保健福祉士 国府田 まゆみ

創立記念事業での症例発表会は、関わりをふりかえる良い機会となりました。発表に向けて、事例をまとめ、部署内で検討することが、支援の見直しや今後の展望につながったと感じています。

事例について部署内で検討していく過程で、見えてきたことが3つあります。

一つ目は、事例に多くの人に関わっていたということです。私たちは、その調整が大きな役割だと改めて気づきました。

二つ目は、地域での生活は、施設の生活では予測できないことが起こるということです。私たちは、施設の外で生活することを前提とした目線で、利用者を支援することが大切だと学びました。

三つ目は、スタッフが利用者の生活に、良くも悪くも影響を与える存在であるということです。私たちも利用者の生活に関わる一部であることを自覚しました。

これらを、今後、実践を行う上でのパワーにしたいと考えています。実践を言葉にしたことで、新しい気づきがあり、挑戦していく「種」ができました。大切に育てていきたいです。



管理者挨拶

スーパーバイザー 関 愛子



スーパーバイザー接遇担当に就任したのが今年4月です。当法人が常に大切にしている事は、「患者様には親切にご家族様には丁寧に」です。接遇とはこの言葉を活かす為には不可欠なことだと考えています。患者様に親切に対応する為には、接する私たちスタッフ間のコミュニケーションがキーポイントだと考えています。

仕事は仲間と切磋琢磨し協力し合い、個人を大切に思う気持ちが必要不可欠だと考えています。そのためには、まずスタッフ間のあいさつ、仕事に対する姿勢、言葉遣い、身だしなみをお互いが注意し合うことが重要です。

それが法人全体に広がることで全部署の接遇が向上し、その結果患者様に対しても又、ご家族様に対しても当法人が大切にしている思いに繋がっていくのではないかと考えています。

また、今年より外来コンシェルジュが配置され、外来患者様が安心して受診ができ困っている事の相談及び案内役としてその人が求める支援を他職種でサポートする為のパイプ役となり、より精神治療の役に立てることを目標とし努力しています。

スーパーバイザー 小林 寿美子



今年4月からスーパーバイザー人事担当として着任いたしました。

人材教育では新人教育・現任教育・プリセプター導入・中途採用者の研修・院内研究発表会・スキルアップ研修・学会等人間性豊かな人材育成を心がけ魅力ある組織作りに取り組んでいます。

また、看護・福祉学校訪問、病院見学会を実施し、当法人に関する質問、就職に関する不安や疑問にお答えし、安心して就職できるよう学生の支援も行っています。

「精神科専門職として必要な知識と技術を修得し誇りと自覚を持ち看護を実践する。」を常に意識し専門性を活かしたチーム医療に発展できるよう医師やコメディカルと情報を共有し患者様中心に個別的に支援し患者様、ご家族様に満足される看護・心がつながらる看護をスタッフ一同目指しております。



各部署紹介 ～ヒマワリ病棟～

ヒマワリ病棟 看護師長 藤井 友和

ヒマワリ病棟（閉鎖病棟）は、急性期の状態を脱した患者様や比較的長期入院の患者様が入院している病棟です。入院している患者様は、急性期の状態ではないもののまだ状態が十分に安定していない方、病状は安定していても社会生活にまだ不安のある方、地域などの受け入れが十分でない方（社会的入院）など背景は様々です。

ヒマワリ病棟では、病状によりADLが低下した患者様や長期入院の患者様に対して、少しでも生活レベルが向上するように受け持ち看護師が関わりを持ち、個別性を重視した看護を実施しております。また病棟に作業療法士も入り、その方のレベルにあったプログラムの実施し、普段なかなか外出する機会が少ないためにりんご狩り、初詣などのプログラムも実施しています。

ヒマワリ病棟は、長期入院患者様の社会復帰を目標にしております。ある程度病状が落ち着いた時点、自立が図れた時点でコスモス病棟（開放病棟）へ移っていきます。実施した援助が早期退院や社会復帰に繋がることで、スタッフの喜びにも繋がり、よりよい看護に繋がると考えております。

今後も他部署との連携をさらに深めていき、患者様だけではなくご家族様に対しての援助も視野に入れ、その方の生活背景等を意識した援助を提供していけるよう取り組んでいきたいと思ひます。

第20回日本臨床精神神経薬理学会・ 第40回日本神経精神薬理学会合同年會に参加して

薬剤師 中田 智雄

2010年9月15から17日に仙台にて開催された第20回日本臨床精神神経薬理学会・第40回日本神経精神薬理学会合同年會に参加いたしました。この学会では全国から多くの医師、薬剤師らが参加し、精神科の新しい薬、薬の安全な飲み方および患者様がいかにして治療を継続するかについての発表やシンポジウムが開かれました。私は薬剤師として、患者様が薬を安心して飲んでいただけるよう

患者様の薬に対する「思い」

- ・統合失調症という病気を防御している。劣等感を感じるが良い効果のほうが強い。
- ・病気を抑えてくれている。症状が無くなっている。幻聴が無くなった。
- ・気持ちが落ち着く。眠れること。一方で副作用はある。
- ・習慣性はあると思うが、病気を治してくれている。
- ・人前で飲むのが恥ずかしい。
- ・集中力が続かず、イライラする。
- ・調子がいい時は飲まなくてもいいと思う。
- ・飲んでいても調子を崩した。

取り組まなければならないという思いを新たにするとともに、そのための有用な情報を得ることができました。



また、私自身も「統合失調症患者の服薬に対する意識の調査－DAI－10を面接ツールとして用いて－」という演題でポスター発表を行いました。これは、DAI－10という薬に関するアンケートをもとに、患者様の薬に対する「思い」について検討したものです。患者様は、薬の効果と副作用のバランスをとることにより薬が必要だと感じているように思われました。発表に対して多くの方から質問やアドバイスをいただき、大変有意義な時間となりました。

今回の学会で得られたことを大切にして今後の仕事に取り組みたいです。患者様に安心して薬を飲んでいただけるよう努力していきます。

外来担当医一覧表

=内科

H22.9.1より

	診察室	月	火	水	木	金	土
午前	1 診	安 部	片 野	安 部	栗 田	鈴 木	水 挽
	2 診	堤	高 橋	堤	遠 藤	堀	太刀川
	3 診					伊 藤	第1,3,5 吉川 第2 鈴木 第4 安部
	5 診						高 橋
午後	1 診	栗 田				第2,4 鈴木 もの忘れ外来	休 診
	2 診		袖 山	休 診		第1,3,5 鈴木 第2,4 安谷屋	
	3 診		佐 藤		伊 藤	中 村	

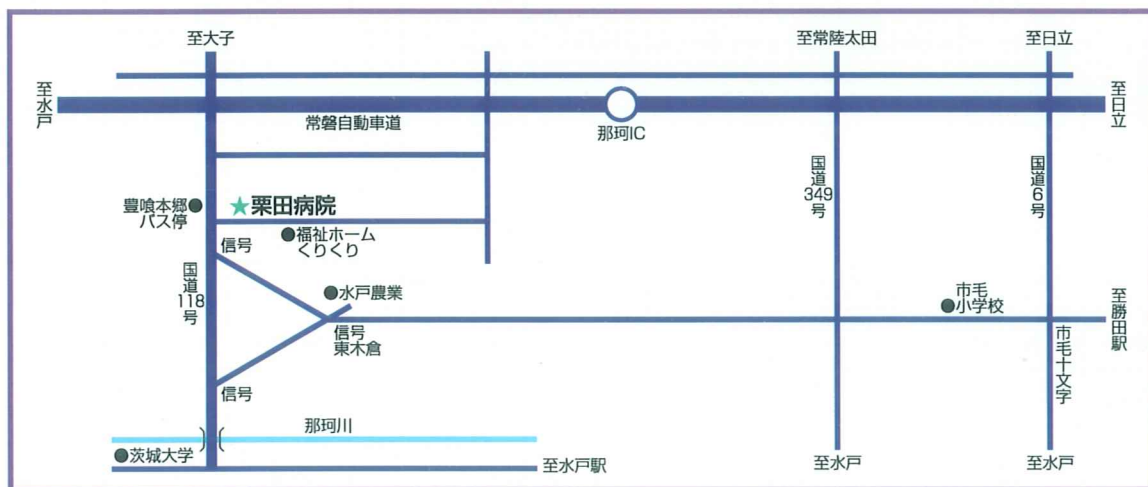
受付時間 午前 8:00～11:30
午後 11:31～15:00
診察時間 午前 9:00開始
午後 13:30開始

*精神科外来は**完全予約制**になります。
***当日のご予約は行っておりません。**前日までにご予約をお願い致します。

予約電話対応
月～土（祝日を除く）
9:00～17:00
TEL 029-298-0175

初めての外来受診・入院を希望される方へ

1. 電話で患者様の情報や現在の状況をご相談下さい。
 2. 次にケースワーカー（相談員）が詳しく話を伺い、その後ご予約をお取りします。
- *現在、他病院を受診している、もしくは受診していた場合は紹介状が必要です。
*当日の状況により、予約内容が変更になる場合がありますので予めご了承ください。



水戸方面から

- ① 水戸駅北口から国道50号線を笠間方面へ。
- ② 大工町警察署のある交差点を右折。
- ③ セブンイレブンのある交差点を左折。
- ④ 国道118号線・常陸大宮方面行きの標識があるので、その信号を右折。
- ⑤ しばらく進むと右手に目的地です。

ひたちなか方面から

- ① 国道6号線・市毛十字路交差点を水戸方面の場合は左折、日立方面の場合は右折。
- ② しばらく進み、国道349号線（デイリーヤマザキのある交差点）を超え、更に進むと国道118号線のT字路にぶつかる。
- ③ T字路を右折し、しばらく進むと右手に目的地です。

* ご不明な点が御座いましたら下記の電話番号までご連絡ください。

TEL 029-298-0175